



事始め

12 月 8 日と 2 月 8 日を「事八日(ことようか)」といい、様々な行事が行われてきました。「事八日」というのは、この日が事を始めたり納めたるする大事な日だからです。

事八日には、針供養をしたり、お事汁を食べたりする風習があります。

12 月 8 日を「事始め」、2 月 8 日を「事納め」という場合と、その逆に、2 月 8 日を「事始め」、12 月 8 日を「事納め」という場合があるのですが、それはいったいなぜでしょう？

事始め**事八日**

「事」とは、もともと祭りあるいは祭り事を表す言葉で、コトノカミという神を祭るお祭りです。そのお祭りが 12 月 8 日と 2 月 8 日の 2 回あり、「事八日」「事の日」などと言われました。コトノカミが「年神様」か「田の神様」かで、事始めと事納めの時期が逆転します。

この日付の違いは、この時に始める「事」が新年に迎える神様の「事」なのか、田畑を耕し農耕に勤しむ人の「事」かという違いです。

年を司る神様を年神様といいます。年神様を迎えるために正月行事の準備を始めるのが 12 月 8 日の「事始め」で、年越しの「神事」が始まる日です。そして、後片付けもすべて納めるのが 2 月 8 日の「事納め」です。こうして神様に関する一連の「事」が終わると、春を迎え田畑を耕す時期となり、人々の日常が始まります。



江戸時代に入ると、12 月 13 日が大吉日とされた鬼宿日にあたることから、この日が江戸城の「御煤納め」と定められました。このため 12 月 13 日が「正月事始め」として定着し、煤払い、松迎えなどの正月の準備にとりかかる日とされています。年神様を迎えるための正月行事が終わって、人の日常生活が始まるのが 2 月 8 日です。2 月 8 日を旧暦で言えば、3 月中旬の気候にあたります。春が来て暖かくなり、農作業が始まり、人の一年の営みが始まるというのがこの 2 月 8 日の「事始め」です。

こうして、年神様を迎える正月行事という「神事」の期間と、それ以外の人の「日常」の期間とに分けるとすれば、一方の始まりの日はまた一方の終わりの日になるわけです。



【お知らせ】

令和 8 年 3 月春彼岸会行事日程について
以下の期日で予定させていただきます。

3 月 20 日(春分の日)、3 月 22 日(日)

読経時間は各日、午前 11 時と午後 2 時の 2 回でございます。

